

令和5年度

年間指導計画 (シラバス)

前	期
---	---

宮崎県立延岡青朋高校
通信制課程

< 目 次 >

1. 国語	… P 1 ~ P 4
2. 地理歴史	… P 5 ~ P 6
3. 公民	… P 7 ~ P 8
4. 数学	… P 9 ~ P 13
5. 理科	… P 14 ~ P 17
6. 保健体育	… P 18 ~ P 22
7. 芸術	… P 23 ~ P 28
8. 外国語	… P 29 ~ P 31
9. 情報	… P 32
10. 家庭	… P 33 ~ P 34
11. 商業	… P 35 ~ P 36
12. 総合的な探究の時間	… P 37 ~ P 38

科目名		国語入門			学期	前期		
最低面接時数		2 時間	レポート数	6 回	テスト	有	単位数	2 単位
履修できる条件		現代の国語・言語文化を履修していないこと。			開講する場所			
					本校（日曜）	高千穂	富島	高鍋
評価計画	添削指導	5 割	各回	1. 意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多く採点で30点に満たないレポートは、再提出させ評価をCとする。 2. 提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価をCとした上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3. 有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。				
			全体	1. レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の5割とする。				
	面接指導	0割	各回	レポートに即した内容と、発展問題を幅広く学ぶ。				
			全体	1. 最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。				
	テスト	5 割	定期	1. 30点未満の者については、知識の定着が不十分であると判断し、再テスト扱いとする。 2. 再テスト対象となった場合は、再テストの規定に従って評価する。				
			試問実技					

1. 目標
- 高校での国語学習における基礎を身につけることを目的として、語彙力を付ける学習を中心に、読解力や古典の知識を身につける。
2. 教科の概要（選択の際のアドバイス）
- 現代文、古文、漢文について中学校の復習をし、読むこと、書くこと、考えることの基礎を身につける。

3. 使用教科書等

教 材	記号・番号	書 名	発行者番号・発行者名
教科書			
教科書			
学習書			
その他			

4. 添削指導計画

※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い単元	指 導 内 容		備 考
1	5/1	語彙力をつける／新聞コラムの書写	語彙力を中心とした国語力の育成。	新聞コラムの読解。	
2	5/16	語彙力をつける／敬語を使おう	語彙力を中心とした国語力の育成。	敬語力をつけ、実際に活用する。	
3	5/30	古文とは何か／歴史的仮名遣い	古文に触れその特色に関心を持つ。	古文の解釈や表現を味わう。	
4	6/13	漢文の基礎／語彙力をつける	漢文の基礎を身につける。	故事成語の由縁を知る。	
5	6/27	語彙力をつける／小説を読む	小説の読み方の基礎を身につける。		
6	7/11	語彙力をつける／名文を読む	日本語の名文に振れ、興味関心を育てる。		

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣 旨	実社会に必要な国語の基礎的な知識や技能を身に付けるようにする。	・話すこと・聞くこと 自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫する。 ・書くこと 目的や意図に応じて適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にする。 ・読むこと 文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握する。	レポート・スクーリング・テストの取り組み状況から学習内容の理解度を把握する。
生徒の学習状況の評価方法	レポート・テストの点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

科目名		現代の国語				学期	前期			
最低面接時数		2 時間		レポート数	6 回	テスト	有	単位数	2 単位	
履修できる条件		国語総合を3単位以上単位修得していないこと。				開講する場所				
						本校（日曜）	高千穂	富島	高鍋	本校（月曜）
評価計画	添削指導	5 割	各回	1. 意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多く採点で30点に満たないレポートは、再提出させ評価をCとする。 2. 提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価をCとした上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3. 有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。						
			全体	1. レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の5割とする。						
	面接指導	0割	各回	レポートに即した内容と、発展問題を幅広く学ぶ。						
			全体	1. 最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。						
	テスト	5 割	定期	1. 30点未満の者については、知識の定着が不十分であると判断し、再テスト扱いとする。 2. 再テスト対象となった場合は、再テストの規定に従って評価する。						
			試問実技							

1. 目標
- 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。
2. 教科の概要（選択の際のアドバイス）
- (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項を身につける。(2) 話や文章に含まれる情報の扱い方に関する事項を身につける。(3) 我が国の言語文化に関する事項を身につける。

3. 使用教科書等

教 材	記号・番号	書 名	発行者番号・発行者名
教科書	現国・701	新編現代の国語	002・東京書籍株式会社
教科書			
学習書	現国・701	上記教科書準拠学習書	NHK出版
その他			

4. 添削指導計画

※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い单元	指 導 内 容	備 考
1	5/1	「未来をつくる想像力」	本文を通読して、内容を把握する。	「イメージの貧困」がなぜ起きるかを理解する。
2	5/16	「水の東西」	「鹿おどし」と「噴水」の違いに着目して全文を通読する。	日本と西洋の具体例を挙げ、, 対比を通して論じていることを知る。
3	5/30	「分かりやすい説明をしよう」	目的や相手に合った分かりやすい説明をする。	実社会において表現するための必要な語句の量を増す。
4	6/13	「スキマが育む都市の緑と生命のつながり」	文章の内容や構成、論理の展開について要旨を把握する。	
5	6/27	「新聞記事を読んで意見文を書こう」	記事の内容を要約し、問題の本質を理解する。	
6	7/11	「美しさの発見」「真の自立」	筆者の「美しさの発見」についての価値観や主張を理解する。	

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣 旨	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	レポート・スクリーニング・テストの取り組み状況から学習内容の理解度を把握する。 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
生徒の学習状況の評価方法	レポート・テストの点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

科目名		論理国語			学期	前期		
最低面接時数		2 時間	レポート数	6 回	テスト	有	単位数	2 単位
履修できる条件		国語総合3単位以上、または現代の国語2単位及び言語文化2単位を修得していること			開講する場所			
					本校（日曜）	高千穂	富島	高鍋
評価計画	添削指導	5割	各回	1. 意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多く採点で30点に満たないレポートは、再提出させ評価をCとする。 2. 提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価をCとした上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3. 有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。				
			全体	1. レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の5割とする。				
	面接指導	0割	各回	レポートに即した内容と、発展問題を幅広く学ぶ。				
			全体	1. 最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。				
	テスト	5割	定期	1. 30点未満の者については、知識の定着が不十分であると判断し、再テスト扱いとする。 2. 再テスト対象となった場合は、再テストの規定に従って評価する。				
			試問実技					

1. 目標

論理的な文章を読むことにより、多角的なものの考え方を知り、論理的思考力を養う。

2. 教科の概要（選択の際のアドバイス）

（1）言葉の特徴や使い方に関する事項を身につける。（2）話や文章に含まれる情報の扱い方に関する事項を身につける。

3. 使用教科書等

教 材	記号・番号	書 名	発行者番号・発行者名
教科書	論国701	新編論理国語	2東京書籍
教科書			
学習書			
その他			

4. 添削指導計画 ※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い単元	指 導 内 容	備 考
1	5/1	対話とは何か	人と人がつながるために対話がいかに大事であるかを考えさせる。	
2	5/16	世界をつくり替えるために	学ぶためのヒントを知ることにより、学ぶ姿勢について考えさせる。	
3	5/30	「ふしぎ」ということ/慣用句・ことわざ	「ふしぎ」と考えることで、世界の見方が変わってくるについて考えさせる。	語句について学ばせる。
4	6/13	学ぶことと人間の知恵	学ぶことの意義について考えさせる。	
5	6/27	ラップトップ抱えた「石器人」	科学を信じすぎた現代人に対する警鐘を読み取らせる。	
6	7/11	思考の肺活量	様々な思考について知ることにより、自らの思考の幅を広げさせる。	

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣 旨	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	レポート・スクーリング・テストの取り組み状況から学習内容の理解度を把握する
生徒の学習状況の評価方法	レポート・テストの点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

科目名		古典探究				学期	前期			
最低面接時数		2 時間		レポート数	6 回	テスト	有	単位数	2 単位	
履修できる条件		国語総合3単位以上、または現代の国語2単位及び言語文化2単位を修得していること				開講する場所				
						本校（日曜）		高千穂	富島	高鍋
評価計画	添削指導	5割	各回	1. 意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多く採点で30点に満たないレポートは、再提出させ評価をCとする。 2. 提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価をCとした上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3. 有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。						
			全体	1. レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の5割とする。						
	面接指導	0割	各回	レポートに即した内容と、発展問題を幅広く学ぶ。						
			全体	1. 最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。						
	テスト	5割	定期	1. 30点未満の者については、知識の定着が不十分であると判断し、再テスト扱いとする。 2. 再テスト対象となった場合は、再テストの規定に従って評価する。						
			試問実技							

1. 目標

昔の人のものの考え方をすることにより、現代との違い、現代につながる思考力について学ばせる。

2. 教科の概要（選択の際のアドバイス）

我が国の言語文化に関する事項を身につける。

教科書	記号・番号	書名	発行者番号・発行者名
教科書	古探720	高等学校標準古典探究	183第一学習社
教科書			
学習書			
その他			

4. 添削指導計画 ※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い単元	指導内容	備考
1	5/1	古文の知識/古本説話集平中が事/竹取物語 火鼠の皮衣/かぐや姫の徒然草 相模守時頼の母は/方丈記ゆく川の流れ	古文の基礎を学び、読む楽しさを養わせる。	説話集を読み、古文の面白さについて考えさせる。
2	5/16	賢人と言われた人のものの考え方について考えさせる。	随筆の構成の面白さについて考えさせる。	
3	5/30	故事・寓話 助長/画竜点睛/漢詩の鑑賞 絶句/蛾眉山月歌	現在使われている言葉の成り立ちについて学ばせる。	漢詩で詠われている作者の心情や風景を觀賞させる。
4	6/13	更級日記 門出/源氏の五十余巻	日記文学を読み、作者の心情を読み取らせる。	
5	6/27	仁人心也/民父母/老子 柔弱/莊子 鷗得腐鼠	中国思想を読み、現代にも通じる生き方、ものの考え方に触れさせる。	
6	7/11	大鏡 弓争ひ/源氏物語 光る君誕生	歴史上の人物のエピソードを知り、歴史について学ばせる。	物語を読み、登場人物の心情について考えさせる。

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣 旨	古典の知識や技能を身に付けるようにする。	古人のものの考え方をすることにより、登場人物の心情に触れ、現代人との相違点、類似点に気づけるようにする。	レポート・スクーリング・テストの取り組み状況から学習内容の理解度を把握する
生徒の学習状況の評価方法	レポート・テストの点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

科目名		地理総合			学期	前期		
最低面接時数		2 時間	レポート数	6 回	テスト	有	単位数	2 単位
履修できる条件		高校在籍1年経過後 同学期に歴史総合との同時履修は原則不可 ※卒業予定者のみ同学期に歴史総合との同時履修可			開講する場所			
					高千穂	本校（日曜）	富島	高鍋 本校（月曜）
評価計画	添削指導	3割	各回	1. 意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多く採点で30点に満たないレポートは、再提出させ評価をCとする。 2. 提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価をCとした上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3. 有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。				
			全体	1. レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の3割とする。				
	面接指導		各回	最低面接時数を満たすことを単位修得の条件とするのみで、評価の対象としない。それは、面接指導者が固定されておらず、しかも1回限り（2時間）の面接で公平かつ十分な評価が困難なためである。				
			全体	1. 最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。				
	テスト	7割	定期	1. 30点未満の者については、知識の定着が不十分であると判断し、再テスト扱いとする。 2. 再テスト対象となった場合は、再テストの規定に従って評価する。				
			試問実技					

1. 目標
- 社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
2. 教科の概要（選択の際のアドバイス）
- 卒業の為、絶対必要な科目です。
① 様々な地図の読図を基に、方位や時差、日本の位置と領域、国家間の結び付きを学びます。
② 生活文化が地理的環境により多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することを学びます。
③ 地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、各国で共通する傾向性や課題相互の関連性を学びます。

3. 使用教科書等

教 材	記号・番号	書 名	発行者番号・発行者名
教科書	地総-703	新地理総合	46 帝国
教科書	地図 311	詳解現代地図	130ニ宮
学習書			
その他			

4. 添削指導計画

※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い単元	指 導 内 容		備 考
1	5/1	地図や地理情報システムと現代世界	地球上の位置と時差/地図の役割と種類	現代世界の国家と領域 グローバル化する世界	
2	5/16	生活文化の多様性と国際理解	世界の地形と人々の生活	世界の気候と人々の生活	
3	5/30	生活文化の多様性と国際理解	乾燥した大陸と太平洋の島々での生活 モンスーンの影響を受ける地域での生活	世界の言語・宗教と人々の生活 イスラームと人々の生活の関わり	
4	6/13	生活文化の多様性と国際理解	ヒンズー教と人々の生活の関わり 移民の歴史と人々の生活の関わり	植民地支配の歴史と人々の生活の関わり	
5	6/27	生活文化の多様性と国際理解	世界の産業と人々の生活 産業力が世界の生活文化に与える影響	経済成長による人々の生活の関わり 地域統合がと人々の生活や産業に与える影響	
6	7/11	地球的課題と国際協力/持続可能な地域づくりと私たち	地球環境問題／資源・エネルギー問題 人口問題／食糧問題／都市居住問題	自然環境と防災	

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣 旨	世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的にまとめる技能を身に付けている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察できている。地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明する力を養う。	レポート・スクーリング・テストの取り組み状況から学習内容の理解度を把握する
生徒の学習状況の評価方法	レポート・テストの点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

科目名		歴史総合			学期	前期			
最低面接時数		2 時間	レポート数	6 回	テスト	有	単位数	2 単位	
履修できる条件		高校在籍1年経過後 同学期に地理総合との同時履修は原則不可 ※卒業予定者のみ同学期に歴史総合との同時履修可			開講する場所				
					本校(日曜)	高千穂	富島	高鍋	本校(月曜)
評価計画	添削指導	3 割	各回	1. 新しい再提出基準(60点未満は不合格,教科担任裁量による可否等)に従って添削し,合格した場合評価を「2」とする。 2. <警告>①提出期限に遅れた場合,1回だけは80点以上あれば評価をすべて「2」とする。80点未満の場合,再提出させ合格にすることもある。②30点未満の場合,再提出で合格すれば評価を「2」とする。 3. 有効期限に遅れたり、「警告」2度目のレポートは無効とし,単位修得を認めない。					
			全体	1. レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の3割とする。					
	面接指導		各回	最低面接時数を満たすことを単位修得の条件とするのみで、評価の対象としない。それは、面接指導者が固定されておらず、しかも1回限り(2時間)の面接で公平かつ十分な評価が困難なためである。					
			全体	1. 同一科目で面接指導者が異なるため、評価の対象とはしないが、最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。					
	テスト	7 割	定期	1. 30点未満の者については、知識の定着が不十分であると判断し、再テスト扱いとする。 2. 再テスト対象となった場合は、再テストの規定に従って評価する。					
			試問実技	実施しない。					

1. 目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

2. 教科の概要（選択の際のアドバイス）

近現代における世界の歴史の動きを多角的・多面的に学ぶことにより、よりよい日本の社会および国際社会を形成するためにはどのように考え行動すべきなのかを主体的に考えることができるようになる科目です。

3. 使用教科書等

教 材	記号・番号	書 名	発行者番号・発行者名
教科書	歴史総合707	歴史総合 近代から現代へ	81山川出版社
教科書			
学習書			
その他		新詳 歴史総合	浜島書店

4. 添削指導計画 ※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い單元	指 導 内 容		備 考
1	5/1	結びつく世界、近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	アジア諸地域の繁栄と日本 ヨーロッパ経済の動向と産業革命	19世紀のヨーロッパ 中国の開港と日本の開国	
2	5/16	明治維新と日本の立憲体制、帝国主義の展開とアジア	明治維新と諸改革 自由民権運動と立憲体制	条約改正と日清戦争 帝国主義と列強の展開	
3	5/30	第一次世界大戦と大衆社会	第一次大戦とロシア革命 国際平和と安全保障	大衆消費社会と市民生活の発展 社会・労働運動の進展と大衆の政治参加	
4	6/13	経済危機と第二次世界大戦、戦後の国際秩序と日本の改革	世界恐慌の発生と各国の対応 ファシズムの台頭	新たな国際秩序と冷戦の始まり 占領下の日本と民主化	
5	6/27	冷戦と世界経済	集団防衛体制と核開発 西ヨーロッパの経済復興	55年体制の成立 冷戦構造のゆらぎ	
6	7/11	グローバル化する世界、現代の課題	冷戦の終結と国際情勢 ソ連の崩壊と経済のグローバル化	地域紛争の激化 国際社会のなかの日本	

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣 旨	知識：近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。 技能：諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	レポート・スクーリング・テストの取り組み状況から学習内容の理解度を把握する
生徒の学習状況の評価方法	レポート・テストの点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

科目名		公共			学期	前期			
最低面接時数		2 時間	レポート数	6 回	テスト	有	単位数	2 単位	
履修できる条件		新入学生は、後期から履修可能 在校生は前、後期一方のみ履修可能			開講する場所				
					本校（日曜）	高千穂	富島	高鍋	本校（月曜）
評価計画	添削指導	3 割	各回	1. 新しい再提出基準（60点未満は不合格，教科担任裁量による合否等）に従って添削し，合格した場合評価を「2」とする。 2. <警告>①提出期限に遅れた場合，1回だけは80点以上あれば評価をすべて「2」とする。80点未満の場合，再提出させ合格にすることもある。②30点未満の場合，再提出で合格すれば評価を「2」とする。 3. 有効期限に遅れたり，「警告」2度目のレポートは無効とし，単位修得を認めない。					
			全体	1. レポートが全て合格したことで，日常の学習活動が十分行われたと判断し，レポートの評価を全体評価の3割とする。					
	面接指導		各回	最低面接時数を満たすことを単位修得の条件とするのみで，評価の対象としない。それは，面接指導者が固定されておらず，しかも1回限り（2時限）の面接で公平かつ十分な評価が困難なためである。					
			全体	1. 最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。					
	テスト	7 割	定期	1. 30点未満の者については，知識の定着が不十分であると判断し，再テスト扱いとする。 2. 再テスト対象となった場合は，再テストの規定に従って評価する。					
			試問実技	実施しない。					

1. 目標
- よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。
2. 教科の概要（選択の際のアドバイス）
- 私たちが生きている現代社会は、どのような特徴をもち、どんな問題を抱えているのかを知り、それをどのように解決していくのか、どのような社会を作っていくのかを考えていく科目です。政治・経済や国際関係を中心に学習しながら、人権・共生、反戦・平和、環境問題など直面する課題についてよく知ることから始めます。そして、グローバル化した社会を生きる人間として、どう行動し生きていくのか考えていきましょう。

3. 使用教科書等

教 材	記号・番号	書 名	発行者番号・発行者名
教科書	公共701	公共	2東京書籍
教科書			
学習書			
その他			

4. 添削指導計画

※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い単元	指 導 内 容		備 考
1	5/1	公共的な空間をつくる私たち 公共的な空間における人間としての在り方生き方	現代社会に生きる青年 社会的な関係のなかで生きる人間	功利主義と幸福の原理 義務論と公正の原理	
2	5/16	公共的な空間における基本的原理 民主政治と私たち	公共的な空間における協働とは 民主主義とは、立憲主義とは、人権保障の意義と展開	民主政治と政治参加	
3	5/30	法の働きと私たち	法や規範の意義と役割 市民生活と私法	国民の司法参加	
4	6/13	経済活動で生きる私たち	現代の経済と市場 市場経済における金融の働き	財政の役割と持続可能な社会保障制度	
5	6/27	私たちの職業生活 国際社会のなかで生きる私たち①	働くことの意義と職業選択 労働者の権利と雇用・労働問題	国際社会のルールとしくみ 国際社会と平和主義	
6	7/11	国際社会のなかで生きる私たち②	国際平和への課題	グローバル化する国際経済	

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣 旨	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念や理論について理解しているとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したり表現したりしている。	レポート・スクーリング・テストの取り組み状況から学習内容の理解度を把握する
生徒の学習状況の評価方法	レポート・テストの点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

科目名		倫理			学期	前期			
最低面接時数		2 時間	レポート数	6 回	テスト	有	単位数	2 単位	
履修できる条件		・公共（現代社会）を修得した者			開講する場所				
					本校（日曜）	高千穂	富島	高鍋	本校（月曜）
評価計画	添削指導	3 割	各回	1. 新しい再提出基準（60点未満は不合格,教科担任裁量による可否等）に従って添削し,合格した場合評価を「2」とする。 2. <警告>①提出期限に遅れた場合,1回だけは80点以上あれば評価をすべて「2」とする。80点未満の場合,再提出させ合格にすることもある。②30点未満の場合,再提出で合格すれば評価を「2」とする。 3. 有効期限に遅れたり,「警告」2度目のレポートは無効とし,単位修得を認めない。					
			全体	1. レポートが全て合格したことで,日常の学習活動が十分行われたと判断し,レポートの評価を全体評価の3割とする。					
	面接指導		各回	最低面接時数を満たすことを単位修得の条件とするのみで,評価の対象としない。それは,面接指導者が固定されておらず,しかも1回限り(2時限)の面接で公平かつ十分な評価が困難なためである。					
			全体	1. 最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。					
	テスト	7 割	定期	1. 30点未満の者については,知識の定着が不十分であると判断し,再テスト扱いとする。 2. 再テスト対象となった場合は,再テストの規定に従って評価する。					
			試問実技	実施しない。					

1. 目標

人間尊重の精神に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、生きる主体としての自己を確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

2. 教科の概要（選択の際のアドバイス）

倫理は、公共の上位科目であり、宗教・哲学者の思想、現代の諸課題を通し、人間の存在や価値について思索を深め、ものの見方・考え方、他者と共に生きる自己の在り方、主体的にどう生きるかを考えていきます。具体的には、先哲の思想を通じて、「道徳とは何か、善悪の基準を何に求めるべきかなどを通し、社会的存在としての人間のあり方を研究する学問」であり、現代を生きる人間として、自分とは何か、何ゆえに生きるのか、どう生きるか、幸福や生きがいとは何か、どういう社会を作るのか等を追究する学びです。自分は何者なのか、どう生きていくのかなどを思案していきます。

3. 使用教科書等

教 材	記号・番号	書 名	発行者番号・発行者名
教科書	倫理704	倫理	104 数研
教科書			
学習書			
その他			

4. 添削指導計画 ※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い単元	指 導 内 容		備 考
1	5/1	さまざまな人間の心の在り方 様々な人間観 源流思想	認知の心理学/人格の心理学 古代ギリシアの思想/キリスト教		
2	5/16	さまざまな人間観 源流思想 さまざまな倫理観・世界観 西洋近現代思想	イスラーム/古代インドの思想と仏教	中国の思想/ルネサンス 宗教改革	
3	5/30	さまざまな倫理観・世界観 西洋近現代思想	自然・科学技術と人間	個人・社会と自由 民主社会の倫理	
4	6/13	さまざまな倫理観・世界観 西洋近現代思想 国際社会に生きる日本人としての自覚	現代思想の流れ	現代社会と生き方	
5	6/27	国際社会に生きる日本人としての自覚	仏教の受容と展開	儒学の受容と国学の発達	
6	7/11	国際社会に生きる日本人としての自覚 現代社会の諸課題と倫理	西洋思想の受容と近現代の日本の思想	生命をめぐる諸課題	

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣 旨	古今東西の幅広い知的蓄積を通し、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする	自立した人間として他者と共によりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力や、現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、論理的に思考し、思索を深め、説明したり対話したりする力を養う。	レポート・スクーリング・テストの取り組み状況から学習内容の理解度を把握する
生徒の学習状況の評価方法	レポート・テストの点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

科目名		数学入門				学期	前期			
最低面接時数		2 時間		レポート数	6 回	テスト	有	単位数	2 単位	
履修できる条件		「数学Ⅰ」が未修得（2単位以下）				開講する場所				
						高千穂	本校（日曜）	富島	高鍋農業	本校（月曜）
評価計画	添削指導	3割	各回	1. 意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多いレポートは、再提出させ評価を2とする。 2. 提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価を2とした上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3. 有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。						
			全体	1. レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の3割とする。						
	面接指導	0割	各回	1. 出席時数の多寡で評価は行わない。						
			全体	1. 最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。						
	テスト	7割	定期	1. 30点未満の者については、知識の定着が不十分であると判断し、再テスト扱いとする。 2. 再テスト対象となった場合は、再テストの規定に従って評価する。						
			試問実技							

1. 目標
- 分数・正の数負の数・文字式の計算、乗法公式、因数分解、方程式、平方根について、基礎的な知識の習得と技能の習熟をはかり、それらを的確に活用する能力を伸ばし、数学Ⅰを学習するための準備とする。
2. 教科の概要（選択の際のアドバイス）
- 高校の数学を学ぶ上で必要な基本的な計算や法則を基礎から学習します。中学3年生までの計算を中心とした復習をしながら基礎力をつけ、高校数学に備えます。分数・正の数負の数・文字式の計算、乗法公式、因数分解、方程式、平方根などについて復習します。

3. 使用教科書等

教 材	記号・番号	書 名	発行者番号・発行者名
教科書		数学Ⅰ 入門	NHK出版
教科書			
学習書			
その他			

4. 添削指導計画

※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い単元	指 導 内 容	備 考
1	5/9	整数と分数	整数の計算、整数の性質、分数の性質、分数と小数、分数の四則計算	
2	5/23	正の数・負の数と文字式	正の数・負の数の四則計算、文字式のきまり、文字式の値	
3	6/6	式の計算	整式の加法と減法、指数法則、整式の乗法と除法	
4	6/20	乗法公式・因数分解	乗法公式、因数分解	
5	7/4	1次方程式	1次方程式の解き方、1次方程式の応用、連立2元1次方程式	
6	7/18	平方根・2次方程式	根号を含む式の計算、2次方程式の解き方	

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣 旨	整数と分数、文字式、式の計算、展開・因数分解、平方根、1次方程式、2次方程式の基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけるようにする。	数や式を基本的な部分を理解し、目的に応じ適切に変形する力、展開や因数分解。平方根などの内容について考察する力を養う。数学Ⅰで学ぶための布石として、基本的な部分について、思考・判断・表現ができるようにする力を養う。	レポート・スクーリング・テストの取り組み状況から学習内容の理解度を把握する。
生徒の学習状況の評価方法	レポート・テストの点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

科目名		数学Ⅰ			学期	前期		
最低面接時数		2 時間	レポート数	6 回	テスト	有	単位数	2 単位
履修できる条件		なし			開講する場所			
					高千穂	本校（日曜）	富島	高鍋農業 本校（月曜）
評価計画	添削指導	3割	各回	1. 意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多いレポートは、再提出させ評価を2とする。 2. 提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価を2とした上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3. 有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。				
			全体	1. レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の3割とする。				
	面接指導	0割	各回	1. 出席時数の多寡で評価は行わない。				
			全体	1. 最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。				
	テスト	7割	定期	1. 30点未満の者については、知識の定着が不十分であると判断し、再テスト扱いとする。 2. 再テスト対象となった場合は、再テストの規定に従って評価する。				
			試問実技					

1. 目標

方程式と不等式、2次関数について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。

2. 教科の概要（選択の際のアドバイス）

高校数学で基礎となる内容を学習します。数と式では、中学校で学習した式の計算や方程式の解法を、公式を利用するなどしてさらに発展させたことを学習します。2次関数では、グラフの平行移動について理解し、2次関数のグラフについて学習します。また、関数の値の変化をとらえ、応用として2次不等式に活用します。三角比では、三角形の辺と角の関係やサイン・コサイン・タンジェントについて理解し、公式を用いて三角形の辺・角・面積の値を求めることを学習します。集合と論証では、集合と命題について理解し、命題の真偽について学習します。データの分析では、データの分析について理解し、データの整理やデータの表し方について学習します。数学の必修科目のため必ず修得する必要があります。

3. 教科書等

教 材	記号・番号	書 名	発行者番号・発行者名
教科書	数Ⅰ319	新 数学Ⅰ	2 東京書籍
教科書			
学習書			
その他			

4. 添削指導計画 ※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い単元	指 導 内 容	備 考
1	5/9	数と式(1)	プレリュード(数の計算)	
2	5/23	数と式(2)	整式(整式の加法・減法・乗法)	
3	6/6	数と式(3)	整式(因数分解), 実数(根号を含む計算)	
4	6/20	数と式(4)	方程式・不等式(1次方程式・1次不等式・2次方程式)	
5	7/4	2次関数(1)	2次関数とそのグラフ(1次関数・2次関数のグラフ・2次関数のグラフの平行移動)	
6	7/18	2次関数(2)	2次関数の値の変化(2次関数の最大値と最小値・2次関数のグラフと2次方程式・2次関数のグラフと2次不等式)	

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣 旨	数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけるようにする。	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じ適切に変形する力、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数について表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、データの散らばりや変量の関係に着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断できる力を養う。	レポート・スクーリング・テストの取り組み状況から学習内容の理解度を把握する。
生徒の学習状況の評価方法	レポート・テストの点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

科目名		数学Ⅰ（演習）				学期	前期				
最低面接時数		2 時間		レポート数	6 回	テスト	有	単位数	2単位（数学Ⅰの増加単位）		
履修できる条件		「数学Ⅰ」修得済み				開講する場所					
						高千穂		本校（日曜）		富島	
評価計画	添削指導	3割	各回	1. 意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多いレポートは、再提出させ評価を2とする。 2. 提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価を2とした上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3. 有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。							
			全体	1. レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の3割とする。							
	面接指導	0割	各回	1. 出席時数の多寡で評価は行わない。							
			全体	1. 最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。							
	テスト	7割	定期	1. 30点未満の者については、知識の定着が不十分であると判断し、再テスト扱いとする。 2. 再テスト対象となった場合は、再テストの規定に従って評価する。							
			試問実技								

1. 目標

数学Ⅰの内容をさらに深め、知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。また、進学を希望している生徒の入学試験に対応できる学力の定着を図る。

2. 教科の概要（選択の際のアドバイス）

数学Ⅰの内容をさらに深く学習し、進学に必要な入試基礎レベルの問題を演習します。数と式では、入試レベルの展開や因数分解を学習します。また、絶対値や循環小数も学習します。2次関数では、2次関数の決定や2次関数の平行移動について学習します。また、2次関数と直線の関係についても学習します。三角比では、三角比を含む方程式について学習します。また、円に内接する四角形の性質も学習します。データの分析では、標準偏差を用いて散らばりぐあいを比較する学習をします。

3. 教科書等

教 材	記号・番号	書 名	発行者番号・発行者名
教科書	数Ⅰ319	新 数学Ⅰ	2 東京書籍
教科書			
学習書			
その他			

4. 添削指導計画 ※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い単元	指 導 内 容	備 考
1	5/9	数と式(1)	整式の加減, 展開, 因数分解	
2	5/23	数と式(2)	根号を含む式の計算, 絶対値, 1次不等式, 循環小数	
3	6/6	2次関数(1)	2次方程式, 関数とグラフ, 絶対値を含む方程式と不等式	
4	6/20	2次関数(2)	2次関数の最大値・最小値, 2次関数の決定, 平行移動, 対称移動	
5	7/4	2次関数(3)	2次関数の応用, 2次不等式	
6	7/18	三角比、データの分析	三角比, データの分析	

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣 旨	数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけるようにする。	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じ適切に変形する力、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数について表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、データの散らばりや変量の関係に着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断できる力を養う。	レポート・スクーリング・テストの取り組み状況から学習内容の理解度を把握する。
生徒の学習状況の評価方法	レポート・テストの点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

科目名		数学A				学期	前期			
最低面接時数		2 時間		レポート数	6 回	テスト	有	単位数	2 単位	
履修できる条件		「数学Ⅰ」と並行あるいは修得済				開講する場所				
						高千穂	本校（日曜）	富島	高鍋農業	本校（月曜）
評価計画	添削指導	3割	各回	1. 意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多いレポートは、再提出させ評価を2とする。 2. 提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価を2とした上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3. 有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。						
			全体	1. レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の3割とする。						
	面接指導	0割	各回	1. 出席時数の多寡で評価は行わない。						
			全体	1. 最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。						
	テスト	7割	定期	1. 30点未満の者については、知識の定着が不十分であると判断し、再テスト扱いとする。 2. 再テスト対象となった場合は、再テストの規定に従って評価する。						
			試問実技							

1. 目標

場合の数と確率、図形の性質及び整数の性質について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を育てるとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。

2. 教科の概要（選択の際のアドバイス）

数学Ⅰの内容と関係性をもちながらも新たな内容を学習します。場合の数と確率では、場合の数や確率をもとめるときの考え方を理解し、さまざまな状況での場合の数や確率の求め方を学習します。文字式の計算はあまりなく、数の計算が主になります。図形の性質では、三角形や円の性質を学習します。また、基本的な作図や多面体の性質についても学習します。整数の性質では、最大公約数と最小公倍数について学習します。進学を考えている人は選択することを薦めます。

3. 使用教科書等

教 材	記号・番号	書 名	発行者番号・発行者名
教科書	数A 319	新 数学A	2 東京書籍
教科書			
学習書			
その他			

4. 添削指導計画 ※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い单元	指 導 内 容	備 考
1	5/9	場合の数(1)	集合、集合の要素の個数、和の法則と積の法則、順列	
2	5/23	場合の数(2) 確率(1)	順列、順列の利用、重複順列、円順列、組合せ、組合せの利用、確率の意味	
3	6/6	確率(2)	確率の計算、独立な試行の確率	
4	6/20	確率(3) 三角形の性質(1)	反復試行の確率、条件つき確率、三角形と比、三角形の重心・外心・内心	
5	7/4	三角形の性質(2) 円の性質	角の二等分線と線分の比、円周角の定理、円に内接する四角形、円と直線、接線と弦のつくる角、方べきの定理	
6	7/18	作図 約数と倍数	基本の作図、多面体、約数と倍数、最大公約数と最小公倍数	

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣 旨	図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけるようにする。	図形の構成要素間関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、論理的に考察する力を養う。	レポート・スクーリング・テストの取り組み状況から学習内容の理解度を把握する。
生徒の学習状況の評価方法	レポート・テストの点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

科目名		数学Ⅱ				学期	前期			
最低面接時数		2 時間	レポート数	6 回	テスト	有	単位数	2 単位		
履修できる条件		「数学Ⅰ」を修得済				開講する場所				
						高千穂	本校(日曜)	富島	高鍋農業	本校(月曜)
評価計画	添削指導	3割	各回	1. 意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多いレポートは、再提出させ評価を2とする。 2. 提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価を2とした上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3. 有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。						
			全体	1. レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の3割とする。						
	面接指導	0割	各回	1. 出席時数の多寡で評価は行わない。						
			全体	1. 最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。						
	テスト	7割	定期	1. 30点未満の者については、知識の定着が不十分であると判断し、再テスト扱いとする。 2. 再テスト対象となった場合は、再テストの規定に従って評価する。						
			試問実技							

1. 目標
- 方程式・式と証明、図形と方程式について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。
2. 教科の概要（選択の際のアドバイス）
- 数学Ⅰの内容を発展・拡充させ、広い数学的な資質・能力の育成を目指します。方程式では、数の範囲を複素数まで拡張する必要性と意味を理解し、複素数の計算を習熟します。また、整式の除法、剰余の定理、因数定理について学び、3次方程式以上の解法に活用していきます。図形と方程式では、直線と円の基本的な平面図形の性質や関係を調べ、2直線の関係、円と直線の位置関係などを調べます。三角関数では、角の概念を一般角まで拡張し、三角関数の性質や相互関係、グラフやその周期性について理解を深めます。指数関数では、指数を正の整数から有理数まで拡張します。また、指数関数のグラフを書き、関数値の増減の様子などを調べます。対数関数では対数の意味について理解し、対数の計算を習熟します。また、常用対数を用いて、整数の桁数を求めます。微分法では、極限の考え方を理解し、微分係数を接線の傾きとして捕らえることで接線の方程式を求めます。また、関数値の増減の様子などを調べます。定積分では、その計算を習熟し、さらに曲線で囲まれた部分の面積を定積分を利用して求めます。

3. 使用教科書等

教 材	記号・番号	書 名	発行者番号・発行者名
教科書	数Ⅱ・719	新 高校の数学Ⅱ	104 数研
教科書			
学習書			
その他			

4. 添削指導計画

※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い单元	指 導 内 容	備 考
1	5/9	方程式・式と証明(1)	集合、集合の要素の個数、和の法則と積の法則、順列	
2	5/23	方程式・式と証明(2)	順列、順列の利用、重複順列、円順列、組合せ、組合せの利用、確率の意味	
3	6/6	方程式・式と証明(3)	確率の計算、独立な試行の確率	
4	6/20	方程式・式と証明(4) 図形と方程式(1)	反復試行の確率、条件つき確率、三角形と比、三角形の重心・外心・内心	
5	7/4	図形と方程式(2)	角の二等分線と線分の比、円周角の定理、円に内接する四角形、円と直線、接線と弦のつくる角、方べきの定理	
6	7/18	図形と方程式(3)	基本の作図、多面体、約数と倍数、最大公約数と最小公倍数	

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣 旨	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	レポート・スクーリング・テストの取り組み状況から学習内容の理解度を把握する
生徒の学習状況の評価方法	レポート・テストの点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

科目名		科学と人間生活				学期	前期			
最低面接時数		8 時間		レポート数	6 回	テスト	有	単位数	2 単位	
履修できる条件		特になし				開講する場所				
						本校(日曜)	高千穂	富島	高鍋	本校(月曜)
評価計画	添削指導	5割	各回	1. 指示無視・大問無解答・他人の筆跡・他人の書写や被書写は、「再提出」。 2. 60～79点でも、学習状況・取り組み・理解度により「再提出」。 3. 60点未満は「不合格+再提出」。 4. 30点未満は「警告+再提出」。 5. 提出期限遅れは、「80点以上+警告+評価2」。(2回目以降は「失格」となり、単位を認めない。) 6. 再提出は、80点以上必要。7. 有効期限遅れは、「失格」。(単位を認めない。)						
			全体	1. レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の5割とする。						
	面接指導		各回	1:出席時数の多寡で評価は行わない。 2:指導中の意欲等を評価に含めない。						
			全体	1. 最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。						
	テスト	5割	定期	1. 30点未満の者については、知識の定着が不十分であると判断し、再テスト扱いとする。 2. 再テスト対象となった場合は、再テストの規定に従って評価する。						
			試問実技	1:特に実施しない。						

1. 目標
- 自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について身近な事物・現象に関する観察、実験などを通して理解させ、科学的な見方や考え方を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。
2. 教科の概要（選択の際のアドバイス）
- 理科の科目の中では比較的計算問題は少ない科目です。学習内容は、科学の歴史、科学技術の発展やその利用、生命についての科学や地球や宇宙についての科学を扱います。

3. 使用教科書等

教 材	記号・番号	書 名	発行者番号・発行者名
教科書	科人 705	高等学校 科学と人間生活	183 第一学習社
教科書			
学習書	なし		
その他	なし		

4. 添削指導計画

※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い单元	指 導 内 容	備 考
1	5/9	科学技術の発展	情報伝達技術の発展 ・エネルギー資源の活用と交通手段の発展 ・医療技術の発展	・医療技術の発展
2	5/23	物質の科学（材料とその利用）	プラスチックの特徴 ・プラスチックの分類と用途 ・さまざまなプラスチック	・金属と人間生活 ・金属のさびと合金 ・繊維
3	6/6	物質の科学（衣料と食品） 生命の科学（ヒトの生命現象）	身近な繊維 ・天然繊維 ・化学繊維	・遺伝子とDNA ・タンパク質の合成
4	6/20	生命の科学（ヒトの生命現象） 生命の科学（微生物とその利用）	・ヒトの視覚 ・微生物の利用	・温度と熱運動 ・熱容量と比熱
5	7/4	熱や光の科学	・仕事や電流と熱の発生 ・エネルギーの移り変わり	・光の発生と速さ ・電磁波の種類とその利用 ・電磁波の種類と性質、利用
6	7/18	地球や宇宙の科学	・日本列島のなりたち ・火山活動と地表の変化 ・火山活動と防災	・地震災害と防災 ・気象災害と防災 ・太陽と太陽系

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣 旨	自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。	観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を養う。	レポート・スクーリング・テストの取り組み状況から学習内容の理解度を把握する。
生徒の学習状況の評価方法	レポート・テストの点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

科目名		化学基礎				学期	前期				
最低面接時数		8 時間		レポート数		6 回	テスト	有	単位数	2 単位	
履修できる条件		特になし					開講する場所				
							本校(日曜)		高千穂		
評価計画	添削指導	5割	各回	1. 指示無視・大問無解答・他人の筆跡・他人の書写や被書写は、「再提出」。 2. 60～79点でも、学習状況・取り組み・理解度により「再提出」。 3. 60点未満は「不合格+再提出」。 4. 30点未満は「警告+再提出」。 5. 提出期限遅れは、「80点以上+警告+評価2」。(2回目以降は「失格」となり、単位を認めない。) 6. 再提出は、80点以上必要。7. 有効期限遅れは、「失格」。(単位を認めない。)							
			全体	1. レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の5割とする。							
	面接指導		各回	1:出席時数の多寡で評価は行わない。 2:指導中の意欲等を評価に含めない。							
			全体	1. 最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。							
	テスト	5割	定期	1. 30点未満の者については、知識の定着が不十分であると判断し、再テスト扱いとする。 2. 再テスト対象となった場合は、再テストの規定に従って評価する。							
			試問実技	1:特に実施しない。							

1. 目標
- 自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について身近な事物・現象に関する観察、実験などを通して理解させ、科学的な見方や考え方を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。
2. 教科の概要（選択の際のアドバイス）
- 理科の科目の中では計算問題は多い科目です。学習内容は、化学の歴史、化学技術の発展やその利用、物質の成り立ちや化学反応式、酸・塩基についての化学や電池のしくみ（酸化・還元）を扱います。

3. 使用教科書等

教材	記号・番号	書名	発行者番号・発行者名
教科書	化基 702	新編 化学基礎	2 東京書籍
教科書			
学習書	なし		
その他	なし		

4. 添削指導計画 ※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い単元	指導内容		備考
1	5/9	物質の探究	・物質の性質と分離	・物質の成分	
2	5/23	物質の構成粒子	・原子の構造	・電子配置と周期表	
3	6/6	物質と化学結合	・イオンとイオン結合	・金属と金属結合 ・分子と共有結合	
4	6/20	物質量と化学変化	・原子量・分子量と物質量	・化学変化の量的関係	
5	7/4	酸と塩基	・酸と塩基 ・水素イオン濃度とpH	・中和反応と塩の生成 ・中和反応の量的関係と中和滴定	
6	7/18	酸化と還元	・酸化と還元	・酸化還元反応の利用	

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣 旨	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	レポート・スクーリング・テストの取り組み状況から学習内容の理解度を把握する。
生徒の学習状況の評価方法	レポート・テストの点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

科目名		生物基礎				学期	前期			
最低面接時数		8 時間	レポート数	6 回	テスト	有	単位数	2 単位		
履修できる条件		特になし				開講する場所				
						本校（日曜）	高千穂	富島	高鍋	本校（月曜）
評価計画	添削指導	5 割	各回	1. 意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多く採点で30点に満たないレポートは、再提出させ評価をCとする。 2. 提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価をCとした上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3. 有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。						
			全体	1. レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の5割とする。						
	面接指導		各回	1. 出席時数の多寡で評価は行わない。 2. 出席者の把握が難しく平等な評価ができないため、面接指導中の意欲や態度については、評価の中に含めない。						
			全体	1. 最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。						
	テスト	5 割	定期	1. 30点未満の者については、知識の定着が不十分であると判断し、再テスト扱いとする。 2. 再テスト対象となった場合は、再テストの規定に従って評価する。						
			試問実技	1.特に実施しない						

1. 目標
- 生物や生物現象に関わり, 理科の見方・考え方を働かせ, 見通しをもって観察, 実験を行うことなどを通して, 生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。
2. 教科の概要（選択の際のアドバイス）
- 理科の科目の中では比較的計算問題は少ないが、図（写真）やグラフを読み取り、自分の言葉で表現する力を伸ばすことができる科目である。細胞単位の小さなところから、からだの中で起きていること、身の回りの自然や環境についての大きなところまで取り扱い、日常生活や社会とのかかわりを考えながら学習を進めていく。大学入試共通テスト受験希望者や看護・医療系の専門学校等への進学希望者については受講を強く勧める。

3. 使用教科書等

教 材	記号・番号	書 名	発行者番号・発行者名
教科書	生基704	高校生物基礎	7 実教出版
教科書			
学習書	なし		
その他	なし	サイエンスビュー 生物総合資料 四訂版	実教出版

4. 添削指導計画

※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い単元	指 導 内 容		備 考
1	5/9	生物の特徴	・細胞の観察 ・生物の共通性と多様性	・代謝とエネルギー ・酵素・光合成・呼吸	
2	5/23	遺伝子とその働き	・遺伝子とDNA ・DNA研究の歴史	・遺伝情報の複製と分配 ・遺伝情報とタンパク質の合成	
3	6/6	ヒトのからだの調節①	・体内環境 ・肝臓・腎臓	・情報の伝達 ・血糖濃度の調節	
4	6/20	ヒトのからだの調節②	・生体防御と免疫 ・自然免疫	・獲得免疫 ・免疫と疾患	
5	7/4	生物の多様性と生態系①	・生態系 ・植生とその変化	・植生とバイオーム ・世界各地のバイオーム	
6	7/18	生物の多様性と生態系②	・生物どうしのつながり ・生態系のバランス	・人間生活による環境への影響 ・生態系の保全の重要性	

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣 旨	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能が身に付いている。	生物や生物現象を対象に、データの分析・解釈、推論などの探究の方法が習得できている。また、生物現象について自身の取り組みや意見を表現することが出来る。	レポート・スクーリング・テストの取り組み状況から学習内容の理解度を把握する。
生徒の学習状況の評価方法	レポート・テストの点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

科目名		地学基礎				学期	前期				
最低面接時数		8 時間		レポート数	6 回	テスト	有	単位数	2 単位		
履修できる条件		特になし				開講する場所					
						富島		高鍋		本校（月曜）	
評価計画	添削指導	5割	各回	1. 意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多く採点で30点に満たないレポートは、再提出させ評価をCとする。 2. 提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価をCとした上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3. 有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。							
			全体	1. レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の5割とする。							
	面接指導		各回	1. 出席時数の多寡で評価は行わない。 2. 出席者の把握が難しく平等な評価ができないため、面接指導中の意欲や態度については、評価の中に含めない。							
			全体	1. 最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。							
	テスト	5割	定期	1. 30点未満の者については、知識の定着が不十分であると判断し、再テスト扱いとする。 2. 再テスト対象となった場合は、再テストの規定に従って評価する。							
			試問実技	実施しない。							

1. 目標

地学的な事物・事象についての観察, 実験や課題研究などを行い, 自然に対する関心や探究心を高め, 地学的に探求する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則の理解を深め, 科学的な自然観を育成する。

2. 教科の概要（選択の際のアドバイス）

理科の科目の中では比較的計算問題も少ない。ただし、グラフや図などを読みとって考える場面も多く、単なる暗記科目とっていると意外に難しいかも知れない。宇宙や太陽系の構造、地球の内部構造など最先端な話題も多く、科学的な教養を身につけるには適した科目である。地震や火山活動を統一的に説明する理論であるプレートテクトニクスなどは特に興味深いところで、根拠に基づいて想像をするという科学の醍醐味を味わうことができる。セ

3. 使用教科書等

教 材	記号・番号	書 名	発行者番号・発行者名
教科書	地基705	高等学校 地学基礎	183第一
教科書	なし		
学習書	使用しない		
その他	なし		

4. 添削指導計画 ※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い单元	指 導 内 容		備 考
1	5/9	宇宙と太陽の誕生	・宇宙の構成 ・太陽	・太陽系の中の地球	
2	5/23	地球の概観 火山活動	・地球の姿 ・地球内部の層構造	・プレートの運動 ・火山活動	
3	6/6	地震 地層	・地震	・地層や岩石と地質構造	
4	6/20	化石 地球と生物の変遷	・化石 ・先カンブリア時代	・古生代と中生代と新生代	
5	7/4	大気と海水の運動	・地球の熱収支 ・大気の構成	・大気の大循環 ・海洋の大循環	
6	7/18	日本の自然環境	・地球の温暖化	・オゾン層の破壊	

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣 旨	日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。	観察、実験などを行い、地球や地球を取り巻く環境を科学的に探究する力を養う。	レポート・スクーリング・テストの取り組み状況から学習内容の理解度を把握する。
生徒の学習状況の評価方法	レポート・テストの点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

科目名		体育A			学期	前期		
最低面接時数		10 時間	レポート数	2 回	テスト	有	単位数	2 単位
履修できる条件		体育A～Fは領域の違いであり、履修の順序、必修設定などはないが、原則として1年次にAとB、2年次にCとD、3年次にはEまたはF、もしくはE、Fの順で履修ができる。体育全体の修得単位数は7単位以上8単位以下とする。旧体育①～③の修得と、体育A～Fの登録とは無関係とする。			開講する場所			
					本校（日曜）	高千穂	富島	高鍋 本校（月曜）
評価計画	添削指導	4割	各回	1. 意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多く採点で30点に満たないレポートは、再提出させ評価をCとする。 2. 提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価を2段階下げた上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3. 有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。				
			全体	1. レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の4割とする。				
	面接指導	1割	各回	1. 出席時数の多寡で評価は行わない。				
			全体	1. 最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。				
	テスト	5割	定期	1. 30点未満の者については、知識の定着が不十分であると判断し、再テスト扱いとする。 2. 再テスト対象となった場合は、再テストの規定に従って評価する。				
			試問 実技	1. 面接指導期間中に必ず実技試験を受験させ、全体評価の4割とする。				

1. 目標
- 運動の合理的な実践を通して、知識を深め、運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。
2. 教科の概要（選択の際のアドバイス）
- ・健康、安全や運動について、理解を深める。

・日常生活の中で、実践できる運動の体験。

3. 使用教科書等

教 材	記号・番号	書 名	発行者番号・発行者名
教科書	保体701	現代高等保健体育	50大修館
教科書			
学習書	なし		
その他		アクティブスポーツ	

4. 添削指導計画 ※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出 期限	取り扱い単元	指 導 内 容	備 考
1	5/16	体育理論・球技	運動・スポーツの学び方・バドミントン・ソフトバレー	
2	6/13	体育理論・卓球・ダンス	運動・スポーツの学び方・卓球・ダンス	
3				
4				
5				
6				

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣 旨	運動の合理的、計画的な実践にかんする具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。また、個人及び社会生活における健康・安全について総合的に理解しているとともに、技能を身に付けている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取組方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人及び社会生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して総合的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	レポート・スクーリング・テストの取り組み状況から学習内容の理解度を把握する。
生徒の学習状況 の評価方法	レポート・テストの点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

科目名		体育C			学期	前期		
最低面接時数		5 時間	レポート数	1 回	テスト	有	単位数	1 単位
履修できる条件		体育A～Fは領域の違っており、履修の順序、必修設定などはないが、原則として1年次にAとB、2年次にCとD、3年次にはEまたはF、もしくはE、Fの順で履修ができる。体育全体の修得単位数は7単位以上8単位以下とする。旧体育①～③の修得と、体育A～Fの登録とは無関係とする。			開講する場所			
					本校（日曜）	高千穂	富島	高鍋 本校（月曜）
評価計画	添削指導	4割	各回	1. 意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多く採点で30点に満たないレポートは、再提出させ評価をCとする。 2. 提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価を2段階下げた上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3. 有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。				
			全体	1. レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の4割とする。				
	面接指導	1割	各回	1. 出席時数の多寡で評価は行わない。				
			全体	1. 最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。				
	テスト	5割	定期	1. 30点未満の者については、知識の定着が不十分であると判断し、再テスト扱いとする。 2. 再テスト対象となった場合は、再テストの規定に従って評価する。				
			試問 実技	1. 面接指導期間中に必ず実技試験を受験させ、全体評価の4割とする。				

1. 目標
- 運動の合理的な実践を通して、知識を深め、運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。
2. 教科の概要（選択の際のアドバイス）
- ・健康、安全や運動について、理解を深める。

・日常生活の中で、実践できる運動の体験。

3. 使用教科書等

教 材	記号・番号	書 名	発行者番号・発行者名
教科書	保体701	現代高校保健体育	50大修館
教科書			
学習書	なし		
その他		アクティブスポーツ	

4. 添削指導計画 ※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出 期限	取り扱い単元	指 導 内 容	備 考
1	5/23	体育理論・バレーボール・ソフトバレー	運動/スポーツの学び方・バレーボール・ソフトバレー	
2				
3				
4				
5				
6				

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣 旨	運動の合理的、計画的な実践にかんする具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。また、個人及び社会生活における健康・安全について総合的に理解しているとともに、技能を身に付けている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取組方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人及び社会生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して総合的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	レポート・スクーリング・テストの取り組み状況から学習内容の理解度を把握する。
生徒の学習状況 の評価方法	レポート・テストの点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

科目名		体育E			学期	前期		
最低面接時数		5 時間	レポート数	1 回	テスト	有	単位数	1 単位
履修できる条件		体育A～Fは領域の違いであり、履修の順序、必修設定などはないが、原則として1年次にAとB、2年次にCとD、3年次にはEまたはF、もしくはE、Fの順で履修ができる。体育全体の修得単位数は7単位以上8単位以下とする。旧体育①～③の修得と、体育A～Fの登録とは無関係とする。			開講する場所			
					本校（日曜）	高千穂	富島	高鍋 本校（月曜）
評価計画	添削指導	4割	各回	1. 意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多く採点で30点に満たないレポートは、再提出させ評価をCとする。 2. 提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価を2段階下げた上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3. 有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。				
			全体	1. レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の4割とする。				
	面接指導	1割	各回	1. 出席時数の多寡で評価は行わない。				
			全体	1. 最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。				
	テスト	5割	定期	1. 30点未満の者については、知識の定着が不十分であると判断し、再テスト扱いとする。 2. 再テスト対象となった場合は、再テストの規定に従って評価する。				
			試問 実技	1. 面接指導期間中に必ず実技試験を受験させ、全体評価の4割とする。				

1. 目標
- 運動の合理的な実践を通して、知識を深め、運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。
2. 教科の概要（選択の際のアドバイス）
- ・健康、安全や運動について、理解を深める。

・日常生活の中で、実践できる運動の体験。

3. 使用教科書等

教 材	記号・番号	書 名	発行者番号・発行者名
教科書	保体701	現代高等保健体育	50大修館
教科書			
学習書	なし		
その他		アクティブスポーツ	

4. 添削指導計画 ※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出 期限	取り扱い単元	指 導 内 容	備 考
1	5/23	体育理論・水泳・ハンドボール	運動・スポーツの学び方・水泳・ハンドボール	
2				
3				
4				
5				
6				

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣 旨	運動の合理的、計画的な実践にかんする具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。また、個人及び社会生活における健康・安全について総合的に理解しているとともに、技能を身に付けている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取組方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人及び社会生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して総合的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	レポート・スクーリング・テストの取り組み状況から学習内容の理解度を把握する。
生徒の学習状況 の評価方法	レポート・テストの点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

科目名		体育G			学期	前期		
最低面接時数		10 時間	レポート数	2 回	テスト	有	単位数	2 単位
履修できる条件		体育A～Fは領域の違いであり、履修の順序、必修設定などはないが、原則として1年次にAとB、2年次にCとD、3年次にはEまたはF、もしくはE、Fの順で履修ができる。体育全体の修得単位数は7単位以上8単位以下とする。旧体育①～③の修得と、体育A～Fの登録とは無関係とする。			開講する場所			
					本校（日曜）	高千穂	富島	高鍋 本校（月曜）
評価計画	添削指導	4割	各回	1. 意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多く採点で30点に満たないレポートは、再提出させ評価をCとする。 2. 提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価を2段階下げた上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3. 有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。				
			全体	1. レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の4割とする。				
	面接指導	1割	各回	1. 出席時数の多寡で評価は行わない。				
			全体	1. 最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。				
	テスト	5割	定期	1. 30点未満の者については、知識の定着が不十分であると判断し、再テスト扱いとする。 2. 再テスト対象となった場合は、再テストの規定に従って評価する。				
			試問実技	1. 面接指導期間中に必ず実技試験を受験させ、全体評価の4割とする。				

1. 目標
- 運動の合理的な実践を通して、知識を深め、運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。
2. 教科の概要（選択の際のアドバイス）
- ・健康、安全や運動について、理解を深める。

・日常生活の中で、実践できる運動の体験。

教材	記号・番号	書名	発行者番号・発行者名
教科書	保体701	現代高等保健体育	50大修館
教科書			
学習書	なし		
その他		アクティブスポーツ	

5. 添削指導計画 ※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い単元	指導内容	備考
1	5/9	体育理論・体づくり運動	運動スポーツと脳・体づくり運動	
2	6/6	体育理論・器械運動・スノーボード	ドーピングとスポーツ倫理・器械運動・スノーボード	
3				
4				
5				
6				

6. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣 旨	運動の合理的、計画的な実践にかんする具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。また、個人及び社会生活における健康・安全について総合的に理解しているとともに、技能を身に付けている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取組方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人及び社会生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して総合的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	レポート・スクーリング・テストの取り組み状況から学習内容の理解度を把握する。
生徒の学習状況の評価方法	レポート・テストの点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

科目名		保健			学期	前期			
最低面接時数		2 時間	レポート数	3 回	テスト	有	単位数	1 単位	
履修できる条件		・14単位以上取得していること。			開講する場所				
					本校（日曜）	高千穂	富島	高鍋	本校（月曜）
評価計画	添削指導	5割	各回	1. 意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多く採点で30点に満たないレポートは、再提出させ評価をCとする。 2. 提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価を2段階下げた上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3. 有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。					
			全体	1. レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の4割とする。					
	面接指導		各回	出席時数2時間のため、評価は行わない。					
			全体	1. 最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。					
	テスト	5割	定期	1. 30点未満の者については、知識の定着が不十分であると判断し、再テスト扱いとする。 2. 再テスト対象となった場合は、再テストの規定に従って評価する。					
			試問実技	特に実施しない。					

1. 目標
- 個人および社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。
2. 教科の概要（選択の際のアドバイス）
- 普段の生活の中で関わりのある生活習慣病や喫煙・飲酒・薬物乱用と健康問題について学ぶ。さらに、心と体の関係・ストレス・エイズについて学習する。

3. 使用教科書等

教 材	記号・番号	書 名	発行者番号・発行者名
教科書	保体701	現代高等保健体育	50 大修館
教科書			
学習書	なし		
その他			

4. 添削指導計画

※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い単元	指 導 内 容	備 考
1	5/16	現代社会と健康	健康のとらえ方・健康と意思決定・行動選択・生活習慣病とその予防・がんの原因とその予防・がん治療と回復	
2	6/13	現代社会と健康	精神疾患の特徴・精神疾患の予防・精神疾患からの回復・喫煙と健康・飲酒と健康・薬物乱用と健康	
3	7/11	現代社会と健康、安全な社会生活	現代の感染症・感染症の予防・性感染症・エイズとその予防・日常的な応急手当・応急手当の意義とその基本・心肺蘇生法・AEDの使い方	
4				
5				
6				

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣 旨	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けている。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目標や状況に応じて他者に伝えている。	レポート・スクーリング・テストの取り組み状況から学習内容の理解度を把握する。
生徒の学習状況の評価方法	レポート・テストの点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

科目名		音楽Ⅰ			学期	前期		
最低面接時数		4 時間	レポート数	3 回	テスト	無	単位数	1 単位
履修できる条件		スクーリングに参加できる生徒			開講する場所			
					本校（日曜）			
評価計画	添削指導	6 割	各回	1. 意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多く採点で30点に満たないレポートは、再提出させ評価をCとする。 2. 提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価をCとした上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3. 有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。				
			全体	1. レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の6割とする。				
	面接指導		各回	1. 出席時数の多寡で評価は行わない。 2. 出席者の把握が難しく平等な評価ができないため、面接指導中の意欲や態度については、評価の中に含めない。				
			全体	1. 最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。				
	実技	4 割	定期					
			試問実技	「創作」自分の名前にメロディーをつける。				

1. 目標
- 音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
(2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。
(3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。
2. 教科の概要（選択の際のアドバイス）
- 音楽は、本来人間にとって必要不可欠です。自分や社会にとってこの音楽が、どのような役割を持つのか。音楽の意味や価値を考え、深めていきましょう。

3. 使用教科書等

教 材	記号・番号	書 名	発行者番号・発行者名
教科書	音Ⅰ 701	音楽Ⅰ Tutti+	017 教出

4. 添削指導計画 ※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い単位	指 導 内 容	備 考
1	5/9	楽典・日本・西洋の音楽史	楽典・音楽の歴史	音楽基礎を再度確認する。日本と世界の音楽の歴史を学んでいく。
2	6/6	楽典・オペラ「魔笛」	楽典・舞台芸術	音符と休符・調について理解する。オペラについて学ぶ。
3	7/4	世界の民謡・日本の民謡と芸能	日本・世界の民謡と芸能	各国の民謡を知る。日本の芸能について学ぶ。

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣 旨	音や音楽に対する自己のイメージを膨らませたり他者のイメージに共感したりして、音楽を形づくっている要素の働かせ方を試行錯誤しながら、表したい音楽表現について考え、どのように音楽で表現するかについて表現意図を持たせることができる。	音楽固有の雰囲気や表情、味わいなどを感じ取りながら、自己のイメージや感情と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わりを捉え、理解することができる。	レポート・スクーリング・実技の取り組み状況から学習内容の理解度を把握する。
生徒の学習状況の評価方法	レポート・実技の点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

科目名		音楽Ⅱ			学期	前期		
最低面接時数		4 時間	レポート数	3 回	テスト	無	単位数	1 単位
履修できる条件		スクーリングに参加できる生徒			開講する場所			
					本校（日曜）			
評価計画	添削指導	6 割	各回	1. 意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多く採点で30点に満たないレポートは、再提出させ評価をCとする。 2. 提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価をCとした上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3. 有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。				
			全体	1. レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価6割とする。				
	面接指導		各回	1. 出席時数の多寡で評価は行わない。 2. 出席者の把握が難しく平等な評価ができないため、面接指導中の意欲や態度については、評価の中に含めない。				
			全体	1. 最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。				
	実技	4 割	定期					
			試問実技	「創作」自分の名前にメロディーをつける。				

1. 目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。

(2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。

(3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていこう態度を養う。

2. 教科の概要（選択の際のアドバイス）

音楽は、本来人間にとって必要不可欠です。自分や社会にとってこの音楽が、どのような役割を持つのか。音楽の意味や価値を考え、深めていきましょう。

3. 使用教科書等

教 材	記号・番号	書 名	発行者番号・発行者名
教科書	音Ⅱ701	音楽Ⅱ Tutti+	017 教出

4. 添削指導計画 ※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い単位	指 導 内 容	備 考
1	5/9	見上げてごらん夜の星を／民謡	見上げてごらん夜の星を	四季の歌など
2	6/6	日本歌曲／フランス語の歌	風の子供	羽衣伝説など
3	7/4	ドイツの歌／世界のさまざまな音楽の魅力	歌の翼に	日本の音楽など

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣 旨	音や音楽に対する自己のイメージを膨らませたり他者のイメージに共感したりして、音楽を形づくっている要素の働かせ方を試行錯誤しながら、表したい音楽表現について考え、どのように音楽で表現するかについて表現意図を持たせることができる。	音楽固有の雰囲気や表情、味わいなどを感じ取りながら、自己のイメージや感情と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わりを捉え、理解することができる。	レポート・スクーリング・実技の取り組み状況から学習内容の理解度を把握する
生徒の学習状況の評価方法	レポート・実技の点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

科目名		美術Ⅰ			学期	前期		
最低面接時数		4 時間	レポート数	3 回	テスト	無	単位数	Ⅰ 単位
履修できる条件		スクーリングに参加できる生徒			開講する場所			
					本校（日曜）			
評価計画	添削指導	6 割	各回	1. 意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多く採点で30点に満たないレポートは、再提出させ評価をCとする。 2. 提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価をCとした上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3. 有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。				
			全体	1. レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の6割とする。				
	面接指導		各回	1. 出席時数の多寡で評価は行わない。 2. 出席者の把握が難しく平等な評価ができないため、面接指導中の意欲や態度については、評価の中に含めない。				
			全体	1. 最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。				
	実技	4割	定期					
			試問実技	1. 各回レポートに実技課題を設定し、レポートの締め切りにあわせて提出する。				

1. 目標
- 美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。
(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、 創造的に表すことができるようにする。
(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようになる。
(3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
2. 教科の概要（選択の際のアドバイス）
- スクーリング時の作品制作や、レポート作成時には画材（絵の具・色鉛筆・筆・パレット等）の準備が必要になります。

3. 使用教科書等

教 材	記号・番号	書 名	発行者番号・発行者名
教科書	美Ⅰ-703	高校美術	Ⅰ16-日文

4. 添削指導計画 ※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い単位	指 導 内 容	備 考
1	5/9	デザイン	レタリングの練習	漢字の「永」を「明朝体」と「ゴシック体」の2つのスタイルで表現し、ポスターカラーの黒で塗って完成させなさい。
2	6/6	絵画	デッサン	身近な静物（花や果物、雑貨、器、置物など動かないもの）をモチーフ（描く対象物）にしてデッサンしてみましょう。
3	7/4	デザイン	平面構成	正円を2個、直線を3本以上使用して画面を分割します。その分割された面をポスターカラーで配色して完成させましょう。（色数は自由）

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣 旨	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	レポート・スクーリング・実技の取り組み状況から学習内容の理解度を把握する。
生徒の学習状況の評価方法	レポート・実技の点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

令和5年度 年間指導計画

34 延岡青朋高等学校（通信制課程）

科目名		美術Ⅱ		学期	前期			
最低面接時数		4 時間	レポート数	3 回	テスト	無	単位数	1 単位
履修できる条件		スクーリングに参加できる生徒			開講する場所			
					本校（日曜）			
評価計画	添削指導	6 割	各回	1. 意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多く採点で30点に満たないレポートは、再提出させ評価をCとする。 2. 提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価をCとした上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3. 有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。				
			全体	1. レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の6割とする。				
	面接指導		各回	1. 出席時数の多寡で評価は行わない。 2. 出席者の把握が難しく平等な評価ができないため、面接指導中の意欲や態度については、評価の中に含めない。				
			全体	1. 最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。				
	実技	4 割	定期					
			試問実技	1. 各回レポートに実技課題を設定し、レポートの締め切りにあわせて提出する。				

1. 目標

美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。

(1) 感性や想像力を働かせ、個性豊かな表現を工夫することができる。
(2) 表現材料や表現形式を工夫し発展させ、効果的に生かす技能を身に付ける。
(3) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想することができる。

2. 教科の概要（選択の際のアドバイス）

スクーリング時の作品制作や、レポート作成時には画材（絵の具・色鉛筆・筆・パレット等）の準備が必要になります。

3. 使用教科書等

教材	記号・番号	書名	発行者番号・発行者名
教科書	美Ⅱ-702	高校生の美術2	116-日文

4. 添削指導計画 ※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い単元	指導内容		備考
1	5/9	絵画	素描	3個の身近な静物をモチーフにしてデッサンしてみましょう。（花・くだもの・器物など動かないもの）	
2	6/6	絵画	漫画	4コマ漫画を5話考えて描いてみましょう。読んでみて楽しくなるような4コマ漫画を考えて描きましょう。	
3	7/4	絵画	水彩画	水彩絵の具で自画像を描いてみましょう。 鏡で自分の顔を観察しながら水彩絵の具で自画像を描きましょう。	

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣 旨	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことができるようにする。	主体的に美術の創造的な諸活動に取り組む、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。	レポート・スクーリング・実技の取り組み状況から学習内容の理解度を把握する
生徒の学習状況の評価方法	レポート・実技の点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

科目名		書道Ⅰ			学期	前期			
最低面接時数		4 時間	レポート数	3 回	テスト	無	単位数	Ⅰ 単位	
履修できる条件		スクーリングに参加できる生徒			開講する場所				
					本校（日曜）	高千穂	富島	高鍋	本校（月曜）
評価計画	添削指導	6 割	各回	1. 意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多く採点で30点に満たないレポートは、再提出させ評価をCとする。 2. 提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価をCとした上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3. 有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。					
			全体	1. レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の6割とする。					
	面接指導		各回	1. 出席時数の多寡で評価は行わない。 2. 出席者の把握が難しく平等な評価ができないため、面接指導中の意欲や態度については、評価の中に含めない。					
			全体	1. 最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。					
	実技	4 割	定期						
			試問実技	1. 各回レポートに実技課題を設定し、レポートの締め切りにあわせて提出する。					

1. 目標
- 書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。
(1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。
(2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。
(3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
(※生徒の作品を校内展示しながら、学ぶ意欲の向上や自己肯定感の育成に努める。)
2. 教科の概要（選択の際のアドバイス）
- 芸術科目の中では用具・用具の準備にかかる費用等大変ではあるが、日常における書写能力を高める技術を身につけることができる。また硬筆による実用書や文字の芸術的表現を楽しむことができる。

3. 使用教科書等

教科書	記号・番号	書名	発行者番号・発行者名
教科書	38・光村	書Ⅰ	705・光村

4. 添削指導計画 ※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い単元	指導内容	備考
1	5/9	書道で学習すること・漢字の書・鑑賞など	孔子廟堂碑	用具・用材・姿勢・執筆法、漢字の変遷と書体、楷書の学習（用筆法・結構法、成立と唐の四大家）
2	6/6	漢字の書（楷書・行書・草書）・鑑賞など	雁塔聖教序	臨書の方法、楷書の学習（書道史、鑑賞）
3	7/4	漢字の書（行書）・篆刻に挑戦しようなど	風信帖	行書の学習（基本の用筆法と字形）、日本で書かれた行書

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣 旨	書の表現の方法や形式、多様性などについて深く考え幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、表現効果を生かして効果的に表現するための技能を身に付けることができる。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて、効果的に構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を深く考え、書の美を味わい捉えたりすることができる。	レポート・スクーリング・実技の取り組み状況から学習内容の理解度を把握する。
生徒の学習状況の評価方法	レポート・実技の点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

科目名		書道Ⅱ			学期	前期		
最低面接時数		4 時間	レポート数	3 回	テスト	無	単位数	Ⅰ 単位
履修できる条件		書道Ⅰ修得済みの者			開講する場所			
					本校（日曜）	高千穂	富島	高鍋
評価計画	添削指導	6 割	各回	1. 意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多く採点で30点に満たないレポートは、再提出させ評価をCとする。 2. 提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価をCとした上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3. 有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。				
			全体	1. レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の6割とする。				
	面接指導		各回	1. 出席時数の多寡で評価は行わない。 2. 出席者の把握が難しく平等な評価ができないため、面接指導中の意欲や態度については、評価の中に含めない。				
			全体	1. 最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。				
	実技	4 割	定期					
			試問実技	1. 各回レポートに実技課題を設定し、レポートの締め切りにあわせて提出する。				

1. 目標
- 書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。
(1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。
(2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。
(3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
(※生徒の作品を校内展示しながら、学ぶ意欲の向上や自己肯定感の育成に努める。)
2. 教科の概要（選択の際のアドバイス）
- 芸術科目の中では用具・用具の準備にかかる費用等大変ではあるが、日常における書写能力を高める技術を身につけることができる。また硬筆による実用書や文字の芸術的表現を楽しむことができる。

3. 使用教科書等

教 材	記号・番号	書 名	発行者番号・発行者名
教科書	38・光村	書Ⅱ	704・光村

4. 添削指導計画

※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い單元	指 導 内 容		備 考
1	5/9	個性豊かな漢字の姿・漢字の書（篆書）など	泰山刻石	漢字の書の個性豊かな表情、篆書の学習（篆書の特徴）	
2	6/6	漢字の書（隸書）・鑑賞など	乙瑛碑	隸書の学習（隸書の特徴、隸書の多彩な表情）、行書の学習	
3	7/4	漢字の書（草書・行書）・鑑賞など	十七帖	草書の学習（特徴、多様な表現）、楷書の学習、書道史	

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣 旨	書の表現の方法や形式、多様性などについて深く考え幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、表現効果を生かして効果的に表現するための技能を身に付けることができる。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて、効果的に構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を深く考え、書の美を味わい捉えたりすることができる。	レポート・スクーリング・実技の取り組み状況から学習内容の理解度を把握する
生徒の学習状況の評価方法	レポート・実技の点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

科目名		英語入門			学期	前期		
最低面接時数		8 時間	レポート数	6 回	テスト	有	単位数	2 単位
履修できる条件		英語C I を未修得の生徒の転編生及び新入生徒に推奨			開講する場所			
					高千穂	本校（日曜）	富島	高鍋 本校（月曜）
評価計画	添削指導	3割	各回	1. 意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多く採点で30点に満たないレポートは、再提出させ評価をCとする。 2. 提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価をCとした上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3. 有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。				
			全体	1. レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の3割とする。				
	面接指導		各回	1. 8時間の最低スクーリング時数（放送視聴4時間分の利用を含む）の充足を基本とする。 出席時間数の多い少ないでは評価しない。 2. 出席者の把握が難しく平等な評価ができないため、面接指導中の意欲や態度は、評価の中に含めない。 3. 面接指導時間中の意欲や態度が本校の規定に抵触するほど著しく不良な場合には、当該面接時間の出席を認めない。				
			全体	1. 最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。				
	テスト	7割	定期	1. 30点未満の者については、知識の定着が不十分であると判断し、再テスト扱いとする。 2. 再テスト対象となった場合は、再テストの規定に従って評価する。				
			試問 実技	1. 30点未満の者については、知識の定着が不十分であると判断し、再テスト扱いとする。 2. 再テスト対象となった場合は、再テストの規定に従って評価する。				

1. 目標
- 英語が苦手だと感じていたり、もう一度基礎から英語を学び直したいと考えたりしている生徒に、英語に対する苦手意識を解消し、「読めて」、「話せて」、「聞けて」、「書ける」という「4つの技能」をバランスよく学習させ、次の「英語コミュニケーションⅠ」の学習への橋渡しをスムーズにする。
2. 教科の概要（選択の際のアドバイス）
- 中学校1、2年生の基礎的な内容がよく工夫されている教材を用い、英語の基礎力を身につけ、次に学ぶ「英語コミュニケーションⅠ」（本校卒業要件筆数単位）の学習を容易にす橋渡し科目である。英語が苦手だと感じていたり、もう一度基礎から英語を勉強し直したいと考えたりしている生徒は、ぜひ英語入門から勉強してください。

3. 使用教科書等

教 材	記号・番号	書 名	発行者番号・発行者名
教科書		英語Ⅰ入門 全国私立通信制高等学校 編	NHK出版
教科書			
学習書			
その他			

4. 添削指導計画 ※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い単元	指 導 内 容	備 考
1	5/9	First Stage P10～15の上段部分	アルファベット・主語と主格・簡単な自己紹介・This(That) is～の文・所有格・形容詞	
2	5/23	First Stage P15の中段部分～ P19 の中段部分	be動詞の疑問文と否定文・一般動詞(be動詞以外の動詞)・定冠詞 the	
3	6/6	First Stage P19下段部分～P31	名詞の複数形・代名詞の複数形・Story①ー1・First①ー2・First Stageのまとめ	
4	6/20	Second Stage P34～P42	一般動詞の否定文①と疑問文①・一般動詞の否定文②と疑問文②	
5	7/4	Second Stage P43～P56	There is(are)の文・There is(are)の否定文と疑問文・前置詞・疑問詞 who やhow	
6	7/18	First Stage及びSecond Stag 全範囲	テスト対策プリントを兼ねた教科書及びレポートの前期既習内容の確認と復習	

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣 旨	[知識・技能]各Lesson中の重要文（ターゲット文）や文法事項の形・意味を理解する。 [技能]各Lessonで学んだ文、Lessonで紹介されたトピックについての内容を聞き取る技能を身に付けている。	各Lessonで扱われる日本国内や海外の事柄について書かれた文章の概要を捉える。また学んだ事柄を学んだ後に、筆記な口頭による表現できる。更に各課の中で紹介される事柄を自身や日本の文化等に対比させて考えることができる。	レポート・スクーリング・テストの取り組み状況から学習内容の理解度を把握する。
生徒の学習状況 の評価方法	レポート・テストの点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

科目名		英語コミュニケーションⅠ			学期	前期		
最低面接時数		8時間	レポート数	6回	テスト	有	単位数	2単位
履修できる条件		C英語Ⅰを未修得の生徒			開講する場所			
					高千穂	本校（日曜）	富島	高鍋 本校（月曜）
評価計画	添削指導	3割	各回	1.意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多く採点で30点に満たないレポートは、再提出させ評価をCとする。 2.提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価をCとした上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3.有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。				
			全体	1.レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の3割とする。				
	面接指導		各回	1.8時間の最低スクーリング時数（放送視聴4時間分の利用を含む）の充足を基本とする。 出席時間数の多い少ないでは評価しない。 2.出席者の把握が難しく平等な評価ができないため、面接指導中の意欲や態度は、評価の中に含めない。 3.面接指導時間中の意欲や態度が本校の規定に抵触するほど著しく不良な場合には、当該面接時間の出席を認めない。				
			全体	1.最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。				
	テスト	7割	定期	1.30点未満の者については、知識の定着が不十分であると判断し、再テスト扱いとする。 2.再テスト対象となった場合は、再テストの規定に従って評価する。				
			試問 実技	1.30点未満の者については、知識の定着が不十分であると判断し、再テスト扱いとする。 2.再テスト対象となった場合は、再テストの規定に従って評価する。				

Ⅰ.目標

幅広い話題について、聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える能力を伸ばすとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。

2. 教科の概要（選択の際のアドバイス）

英語によるコミュニケーション能力向上に資するよう、基本文型・助動詞・完了形・受動態・関係代名詞などの高校英語の基礎・基本を学習し、その定着を図る。

3. 使用教科書等

教材	記号・番号	書名	発行者番号・発行者名
教科書	C1701	All Abord! English CommunicationⅠ	2東書
教科書			
学習書			
その他			

4. 添削指導計画 ※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出 期限	取り扱い単元	指導内容	備考
1	5/9	Warm-Up、Pre-Lesson、Lesson 1 Breakfast Around the World	教室英語、疑問詞、動詞の過去形など	
2	5/23	Lesson 2 Australia's Cute Quokkas	進行形など	
3	6/6	Lesson 3 A Train Driver in Sanriku	助動詞など	
4	6/20	Lesson 4 A Miracle Mirror	to不定詞など	
5	7/4	Lesson 5 Learning from the Sea	動名詞など	
6	7/18	前期学習範囲のまとめ	Lesson1～5の既習内容の確認と復習	

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣 旨	[知識・技能]各Lesson中の重要文（ターゲット文）や文法事項の形・意味を理解する。 [技能]各Lessonで学んだ文、文法事項などの理解をもとに、同Lessonで紹介されたトピックについての内容を聞き取る技能を身に付けてい	各Lessonで扱われる日本国内や海外の事柄について書かれた文章の概要を捉える。また、学んだ事柄を学んだ後に、筆記や口頭による表現している。更に、各課の中で紹介される事柄を自分自身や日本の場合など対比させて考えようとしている。	レポート・スクーリング・テストの取り組み状況から学習内容の理解度を把握する。
生徒の学習状況 の評価方法	レポート・テストの点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

科目名		英語コミュニケーションⅡ			学期	前期		
最低面接時数		8 時間	レポート数	6 回	テスト	有	単位数	2 単位
履修できる条件		選択科目（C英語Ⅰまたは英語CⅠ既修得者のみ登録可）			開講する場所			
					高千穂	本校（日曜）	富島	高鍋 本校（月曜）
評価計画	添削指導	3割	各回	1. 意欲の感じられないレポート、空欄や誤答の極端に多いレポート並びに採点で60点に満たないレポートは、再提出させ評価をしない。 2. 提出期限に遅れた場合は評価を2とし、再度期限に遅れた場合は単位を認めない。 3. 有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位を認めない。				
			全体	1. レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の3割とする。				
	面接指導		各回	1. 出席時数の多い、少ないでは評価は行わない。 2. 出席者の把握が難しく平等な評価ができないため、面接指導中の意欲や態度については、評価の中に含めない。				
			全体	1. 最低面接時数を満たしていない場合は単位を認めない。				
	テスト	7割	定期	1. 30点未満の者については、知識の定着が不十分であると判断し、再テスト扱いとする。 2. 再テスト対象となった場合は、再テストの規定に従って評価する。				
			試問実技					

1. 目標
- 幅広い話題について聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える能力を伸ばすとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうと
2. 教科の概要（選択の際のアドバイス）
- 単語が少し難しく感じられたり、いろいろな熟語・構文が出てくるが、内容的には英語入門・英語Ⅰで学習してきたことに少し応用を加えた科目である。
比較、不定詞、関係詞、知覚動詞、使役動詞、仮定法過去などを学習する。
進学や就職など、将来的に英語が必要となる人はもちろんのこと、興味が少しでもある人に是非とも選択してもらいたい。

3. 使用教科書等

教 材	記号・番号	書 名	発行者番号・発行者名
教科書	CⅡ70Ⅰ	All Aboard! English Communication Ⅱ	2東書
教科書			
学習書			
その他			

4. 添削指導計画

※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い单元	指 導 内 容	備 考
1	5/9	Pre-Lesson My plans for this year Lesson Ⅰ A Colorful Island	want to ～の表現・関係代名詞 what	
2	5/23	Lesson 2 With the Beatles	比較級と最上級の表現	
3	6/6	Lesson 3 Wild Men	It is …for 人(目的格) to ～ 及び It is … that S (主語)+ V(動詞) の表現	
4	6/20	Lesson 4 Little Hero	関節疑問文	
5	7/4	Lesson 5 Special Makeup in Kabuki	want (ask / tell) + 人(目的格) + to + ～ の表現	
6	7/18	前期学習範囲のまとめ	テスト対策プリントを兼ねたLessonⅠ～5の確認と復習	

6. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣 旨	〔知識・技能〕 各Lesson中の重要文（ターゲット文）や文法事項の形・意味を理解する。 〔技能〕 各Lessonで学んだ文、文法事項などの理解をもとに、同Lessonで紹介されたトピックについての内容を聞き取る技能を身に付けている。	各Lessonで扱われる日本国内や海外の事柄や文化などについて書かれた文章の概要を捉える。また、学んだ事柄を学んだ後に、筆記や口頭による表現している。更に、各課の中で紹介される事柄を自分自身や日本の場合など対比させて考えようとしている。	レポート・スクーリング・テストの取り組み状況から学習内容の理解度を把握する
生徒の学習状況の評価方法	レポート・テストの点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価する。		

科目名		情報Ⅰ			学期	前期		
最低面接時数		4 時間	レポート数	4 回	テスト	有	単位数	2 単位
履修できる条件		高等学校在籍2年目以降			開講する場所			
					本校（日曜）	高千穂	富島	高鍋
評価計画	添削指導	5 割	各回	1. 意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多く採点で30点に満たないレポートは、再提出させ評価をCとする。 2. 提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価をCとした上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3. 有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。				
			全体	1. レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の5割とする。				
	面接指導		各回	出席者の把握が難しく平等な評価ができないため、面接指導中の意欲や態度については、評価の中に含めない。				
			全体	1. 最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。				
	テスト	5 割	定期	1. 30点未満の者については、知識の定着が不十分であると判断し、再テスト扱いとする。 2. 再テスト対象となった場合は、再テストの規定に従って評価する。				
			試問実技					

1. 目標
- 情報に関する科学的な見方・考え方を重視するとともに、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用するための知識及び技能を身に付け、実際に活用する力を養うとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う
2. 教科の概要（選択の際のアドバイス）
- (1) 現在の情報技術が人や社会に果たす役割と影響、情報モラルなどについて理解する。
(2) メディアの特性やコミュニケーション手段について理解し、情報デザインの考え方や方法を理解し表現する技能を身に付ける。
(3) コンピュータの仕組み、モデル化とシミュレーション、アルゴリズムとプログラミングなどを学ぶ。

3. 使用教科書等

教材	記号・番号	書名	発行者番号・発行者名
教科書	情Ⅰ706	図説情報Ⅰ	7 実教出版
教科書			
学習書			
その他			

4. 添削指導計画

※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い单元	指導内容	備考
1	5/16	序章 情報社会と私たち	情報や知識, IoT, 人工知能 (AI) について学ぶ。 ネットワーク上のルールとマナー, 情報の受信者・発信者としてのモラルと責	
2	6/6	1章 情報社会と問題解決	問題解決の意味を理解し, 問題解決の流れについて学ぶ。	
3	6/27	2章 コミュニケーションと情報デザイン 3章 情報とコンピュータ	ネットワーク上のコミュニケーションのメリットとデメリット (即時性, 利便性, 保存性, 匿名性) について学ぶ。	
4	7/18	4章 アルゴリズムとプログラム 5章 モデル化とデータの活用	アルゴリズムの基本構造 (順次, 選択, 繰り返し), プログラム構造について学ぶ。	
5				
6				

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣 旨	効果的なコミュニケーションの実現, コンピュータやデータの活用について理解し, 技能を身に付けているとともに, 情報社会と人との関わりについて理解している。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え, 問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている	レポート・スクーリング・テストの取り組み状況から学習内容の理解度を把握する
生徒の学習状況の評価方法	レポート・テストの点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

科目名		家庭総合			学期	前期			
最低面接時数		4 時間	レポート数	4 回	テスト	有	単位数	2 単位	
履修できる条件		全籍校で家庭総合・家庭基礎・生活技術を未修得の生徒			開講する場所				
					本校（日曜）	高千穂	富島	高鍋農業	本校（月曜）
評価計画	添削指導	5割	各回	1. 意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多く採点で30点に満たないレポートは、再提出させ評価をCとする。 2. 提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価をCとした上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3. 有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。 4. 実習未提出は、単位修得を認めない。					
			全体	1. レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の5割とする。					
	面接指導		各回	1. 出席時数の多寡で評価は行わない。 2. 出席者の把握が難しく平等な評価ができないため、面接指導中の意欲や態度については、評価の中に含めない。					
			全体	1. 最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。					
	テスト	5割	定期	1. 30点未満の者については、知識の定着が不十分であると判断し、再テスト扱いとする。 2. 再テスト対象となった場合は、再テストの規定に従って評価する。 3. 実習も重視するため、レポート課題の実習を定期テストの20%分とする。					
			試問 実技						

1. 目標

人の一生と家族、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、衣食住、消費生活などに関する知識と技術を総合的に習得させ、生活課題を主体的に解決するとともに、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。

2. 教科の概要（選択の際のアドバイス）

前期では、第1章～第6章「家族・社会との共生」「生活の自立」をテーマに、生涯を見通す・人生をつくる・子どもと共に育つ・超高齢社会を共に生きる・共に生き、共に支える・食生活をつくるについて学習する。また、調理実習・被服実習の課題を課しているため、自宅でしっかり実習することも大切な学習内容となっている。

3. 使用教科書等

教 材	記号・番号	書 名	発行者番号・発行者名
教科書	家庭・701	家庭総合 自立・共生・創造	2・東書
教科書			
学習書			
その他			

4. 添削指導計画 ※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い単位	指 導 内 容	備 考
1	5/1	第1 章生涯を見通す 第2章人生をつくる	人生を展望する/目標を持って生きる/人生をつくる/家族・家庭を見つめる/これからの家庭生活と社会	
2	5/23	第3章 子どもと共に育つ	命を育む/子どもの育つ力を知る/子どもの関わる／子どもとの触れ合いから学ぶ/これからの保育環境	
3	6/13	第4/5章 超高齢社会を共に生きる/共に生き、共に支える	高齢期を理解する/高齢者の心身の特徴/高齢者を支える/これからの高齢社会/生活と福祉/社会保障/共に生きる	
4	7/4	第6章 食生活をつくる	食生活の課題について考える／食事と栄養・食品/食品の選択と安全／生涯の健康を見通した食事計画	
5				
6	7/11	調理実習・被服実習	調理（魚の鍋照り焼き・ほうれん草のおひたし、野菜碗）被服（スタイ）	

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣 旨	生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、食生活などについて科学的に理解しているとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身につけている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見だし、課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的に根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。	レポート・スクーリング・テストの取り組み状況から学習内容の理解度を把握する。
生徒の学習状況の評価方法	レポート・テストの点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

科目名		保育基礎			学期	前期			
最低面接時数		4 時間	レポート数	4 回	テスト	有	単位数	2 単位	
履修できる条件		本校2年目以降の生徒、家庭総合・家庭基礎・生活技術を修得済の生徒（3年次生は家庭総合との同時履修可）			開講する場所				
					本校（日曜）	高千穂	富島	高鍋	本校（月曜）
評価計画	添削指導		各回	1. 意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多く採点で30点に満たないレポートは、再提出させ評価をCとする。 2. 提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価をCとした上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3. 有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。 4. 実習未提出は、単位修得を認めない。					
			全体	1. レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の5割とする。					
	面接指導		各回	1. 出席時数の多寡で評価は行わない。 2. 出席者の把握が難しく平等な評価ができないため、面接指導中の意欲や態度については、評価の中に含めない。					
			全体	1. 最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。					
	テスト		定期	1. 30点未満の者については、知識の定着が不十分であると判断し、再テスト扱いとする。 2. 再テスト対象となった場合は、再テストの規定に従って評価する。 3. レポート課題の視聴覚学習記録を定期テストの10%分とする。					
			試問実技						

1. 目標

保育の意義や方法、子供の発達や生活の特徴及び子供の福祉と文化などについて理解し、子供を取り巻く課題を発見し、解決する力を身につける。また、子供の健やかな発達を目指して自ら学び、保育に主体的にかつ協働的に取り組む態度を養う。

2. 教科の概要（選択の際のアドバイス）

子供の保育、子供の発達、子供の生活と養護、子供の福祉、子供の文化の子どもの感覚・運動・身体・情緒などの発達の特徴を理解し、どのような関わりが必要かなど、総合的な保育の知識と技術を身につける。実際に子どもとの触れ合う学習が求められるが、通信制では実施が困難なため、毎時間のスクーリングの際に子どもの成長に関わるDVDを視聴し、その学習記録をレポートの課題としている。

3. 使用教科書等

教 材	記号・番号	書 名	発行者番号・発行者名
教科書	家庭706	保育基礎 ようこそ、ともに育ち合う保育の世界へ	6 教図
教科書			
学習書			
その他			

4. 添削指導計画 ※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い単位	指 導 内 容	備 考
1	5/1	1章 子どもの保育	保育の意義／保育の環境／保育の方法	
2	5/23	2章 子どもの発達	子どもの発達の特性／乳幼児の発育と発達	
3	6/13	2章 子どもの発達	乳幼児の発育と発達	
4	7/4	3章 子どもの生活	子どもの健康と生活／子どもの衣服と寝具	
5				
6	7/11	視聴覚教材学習記録		

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣 旨	保育に関する基礎的・基本的な知識や技術を体系的・系統的に身につけている。子供の発達特性や発達過程に対応した技術を身につけている。	子供を取り巻く課題を見つけ、その解決を目指して思考を深め、適切な判断や工夫、表現する力を身につけている。	レポート・スクーリング・テストの取り組み状況から学習内容の理解度を把握する
生徒の学習状況の評価方法	レポート・テストの点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

科目名		ビジネス・コミュニケーション			学期	前期		
最低面接時数		4 時間	レポート数	4 回	テスト	有	単位数	2 単位
履修できる条件		高等学校在籍2年目以降			開講する場所			
					本校（日曜）	高千穂	富島	高鍋 本校（月曜）
評価計画	添削指導	5 割	各回	1. 意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多く採点で30点に満たないレポートは、再提出させ評価をCとする。 2. 提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価をCとした上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3. 有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。				
			全体	1. レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の5割とする。				
	面接指導		各回	出席者の把握が難しく平等な評価ができないため、面接指導中の意欲や態度については、評価の中にも含めない。				
			全体	1. 最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。				
	テスト	5 割	定期	1. 30点未満の者については、知識の定着が不十分であると判断し、再テスト扱いとする。 2. 再テスト対象となった場合は、再テストの規定に従って評価する。				
			試問実技					

1. 目標
- 商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスにおけるコミュニケーションに必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
2. 教科の概要（選択の際のアドバイス）
- (1) ビジネスにおけるコミュニケーションについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
(2) ビジネスにおけるコミュニケーションに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。
(3) ビジネスを円滑に展開する力の向上を目指して、自ら学び、ビジネスにおいてコミュニケーションを図ることに主体的かつ協働的に取り組む態度を
3. 使用教科書等

教材	記号・番号	書名	発行者番号・発行者名
教科書	商業704	ビジネス・コミュニケーション	7 実教出版
教科書			
学習書			
その他			

4. 添削指導計画 ※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い単元	指導内容	備考
1	5/1	1章 企業の組織と人間関係	・業務の適切な進行方法やそれを実践する重要性を理解する。 ・業務の効率化に必要なスケジュール管理方法を理解する。	
2	5/23	2章 応対に関するビジネスマナー	・場面に応じた挨拶やお辞儀を理解し、実践する。 ・身だしなみ・表情・身のこなしなどを理解し、実践する。 ・敬語やコミュニケーションの言葉など、適切な言葉遣いを理解し、実践する。	
3	6/13	3章 交際に関するビジネスマナー 4章 接客に関するビジネスマナー	・冠婚葬祭の基礎知識、贈答・慶事・弔事などのマナーについて、場所や立場に応じた適切な行動を理解する。 ・効果的な接客に必要な知識や態度について理解する。	
4	7/4	5章 コミュニケーションの役割と思考方法 6章 ビジネスにおけるコミュニケーション 7章 コミュニケーションとビジネススキル	・ビジネスコミュニケーションの役割と種類を学習し、その重要性を理解する。 ・ビジネスコミュニケーションの場面と心得を理解する。 ・論理的な考え方とビジネスにおけるフレームワークを理解する。	

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣 旨	実際のビジネスにおけるコミュニケーションと関連付け、ビジネスの様々な場面で役に立つコミュニケーションに関する知識と技術を身に付けている。	ビジネスにおけるコミュニケーションに関する課題を発見するとともに、コミュニケーションに関する理論、成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決する力を養っている。	レポート・スクーリング・テストの取り組み状況から学習内容の理解度を把握する
生徒の学習状況の評価方法	レポート・テストの点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

科目名		商品開発と流通			学期	前期		
最低面接時数		4 時間	レポート数	4 回	テスト	有	単位数	2 単位
履修できる条件		高等学校在籍2年目以降			開講する場所			
					本校（日曜）	高千穂	富島	高鍋
評価計画	添削指導	5 割	各回	1. 意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多く採点で30点に満たないレポートは、再提出させ評価をCとする。 2. 提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価をCとした上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3. 有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。				
			全体	1. レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の5割とする。				
	面接指導		各回	出席者の把握が難しく平等な評価ができないため、面接指導中の意欲や態度については、評価の中に含めない。				
			全体	1. 最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。				
	テスト	5 割	定期	1. 30点未満の者については、知識の定着が不十分であると判断し、再テスト扱いとする。 2. 再テスト対象となった場合は、再テストの規定に従って評価する。				
			試問実技					

1. 目標

商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスにおけるコミュニケーションに必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

2. 教科の概要（選択の際のアドバイス）

(1) ビジネスにおけるコミュニケーションについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
(2) ビジネスにおけるコミュニケーションに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。
(3) ビジネスを円滑に展開する力の向上を目指して、自ら学び、ビジネスにおいてコミュニケーションを図ることに主体的かつ協働的に取り組む態度を

3. 使用教科書等

教 材	記号・番号	書 名	発行者番号・発行者名
教科書	商業732	商品開発と流通	7 実教出版
教科書			
学習書			
その他			

4. 添削指導計画 ※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い単元	指 導 内 容	備 考
1	5/1	第1章 商品開発と流通の概要	・商品や商品開発の考え方、有形財だけでなくサービスや権利なども含めて流通において商品として取引されていることについて扱う。	
2	5/23	第2章 商品の企画	・商品のライフサイクル、新しい市場の開拓、経済のグローバル化などによる商品の多様化の現状について扱う。	
3	6/13	第3章 事業計画の立案 第4章 商品の開発	・生産計画、マーケティング計画、財務計画など事業の展開に必要な項目からなる事業計画書の作成について扱う。 ・商品本体などの商品仕様を決定して試作品などを作り、評価の項目と基準を設定して試作品や試行結果を評価し、設計と仕様の変更を行う一連の流れについて扱う。	
4	7/4	第5章 商品の販売 第6章 商品開発と流通に関わる新たな展開	・様々な視点をもった多様な職業や立場の人などと協働した観察とワークショップ、プロトタイピングなどを繰り返して新しい解決策を生み出そうとするなどのデザイン思考の重要性について扱い、具体的な事例と関連付けて分析を行う。	

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣 旨	商品開発と流通について実務に即して体系的・系統的に理解し、商品の企画からプロモーションまでの様々な場面で役に立つ商品開発に関する知識と、流通の立場から捉えた取引対象としての商品に関する知識を身に付けている。	商品開発と流通をはじめとした様々な知識や情報などを活用し、商品開発と流通の動向や課題を発見するとともに、ビジネスに関わる様々な立場に立って、妥当性と課題などの視点から、科学的な根拠に基づいて商品開発と流通に関する計画を立案したり、提案したりしている。	レポート・スクーリング・テストの取り組み状況から学習内容の理解度を把握する
生徒の学習状況の評価方法	レポート・テストの点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

科目名		総合探究A			学期	前期		
最低面接時数		5 時間	レポート数	3 回	テスト	無	単位数	2 単位
履修できる条件					開講する場所			
					本校（日曜）	高千穂	富島	高鍋
評価計画	添削指導		各回	1. 意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多いレポートは、再提出とし評価をCとする。 2. 提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価をCとした上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3. 有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。				
			全体	1. レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断します。				
	面接指導		各回	出席者の把握が難しく平等な評価ができないため、面接指導中の意欲や態度については、評価の中にも含めない。				
			全体	1. 最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。				
	テスト		定期	実施しません				
			試問 実技					

1. 目標
- 探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
2. 教科の概要（選択の際のアドバイス）
- 様々な課題（テーマ）について、インターネットなどを活用しながら調査してレポートを仕上げます。

3. 使用教科書等

教 材	記号・番号	書 名	発行者番号・発行者名
教科書			
教科書			
学習書			
その他			

4. 添削指導計画 ※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	学 習 内 容	備 考
1	5/16	将来の夢・コミュニケーションの取り方・マナーとモラル	
2	6/13	SDGs・仕事について	
3	7/11	自分を知る・自分を見つめる・面接の仕方・お礼状の書き方	
4			

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣 旨	地域や社会の人、もの、ことに関わる探究の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、地域や社会の特徴やよさに気づき、それらが人々の関わりや協働によって支えられていることに気付いている。	地域や社会の人、もの、ことと自分自身との関わりから問いを見だし、その解決に向けて仮説を立てたり、調査して得た情報を基に分析したりする力を身に付けるとともに、論理的にまとめ・表現する力を身に付けている。	地域や社会の人、もの、ことについての探究活動に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、持続可能な社会を実現するために行動し、社会に貢献しようとしている。
生徒の学習状況の評価方法	レポート・テストの点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

科目名		総合探究B				学期	前期				
最低面接時数		3 時間		レポート数	2 回	テスト	無	単位数	1 単位		
履修できる条件						開講する場所					
						本校（日曜）	高千穂	富島	高鍋	本校（月曜）	
評価計画	添削指導		各回	1. 意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多いレポートは、再提出とし評価をCとする。 2. 提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価をCとした上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3. 有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。							
			全体	1. レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断します。							
	面接指導		各回	出席者の把握が難しく平等な評価ができないため、面接指導中の意欲や態度については、評価の中に含めない。							
			全体	1. 最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。							
	テスト		定期	実施しません							
			試問 実技								

1. 目標
- 探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
2. 教科の概要（選択の際のアドバイス）
- 様々な課題（テーマ）について、インターネットなどを活用しながら調査してレポートを仕上げます。

3. 使用教科書等

教 材	記号・番号	書 名	発行者番号・発行者名
教科書			
教科書			
学習書			
その他			

4. 添削指導計画

※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	学 習 内 容	備 考
1	5/23	自分再発見・第2回目に向けてテーマ設定と素材集め	
2	6/27	調査と報告	
3			
4			

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣 旨	地域や社会の人、もの、ことに関わる探究の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、地域や社会の特徴やよさに気づき、それらが人々の関わりや協働によって支えられていることに気付いている。	地域や社会の人、もの、ことと自分自身との関わりから問いを見だし、その解決に向けて仮説を立てたり、調査して得た情報を基に分析したりする力を身に付けるとともに、論理的にまとめ・表現する力を身に付けている。	地域や社会の人、もの、ことについての探究活動に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、持続可能な社会を実現するために行動し、社会に貢献しようとしている。
生徒の学習状況の評価方法	レポート・テストの点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		